

学界情報

Industry Application Society IEEE-IAS 2007 Annual Meeting September 23-27, 2007, Sheraton Hotel, NEW ORLEANS, USA

IEEE Industry Application Society が開催する Annual Meeting に久しぶりに参加した。本会議をその採択率の低さから USA のみならず全世界で“Best Conference”と位置づける研究者も多い。しかし、学生時代に参加して得た印象とかなり違った印象を今回は感じたので、その点を中心に報告していきたい。

まず、会議の規模であるが、単一 Society の会議であるためにそれほど大きくない。Technical Session は全部で 70 あり、Committee ごとに約 10 の Session が並行して行われる。1 つの Session はすべて口頭発表であり、6~7 件の発表が行われる。よって発表時間は 1 人あたり約 30 分あり、充実したプレゼンテーションと活気ある質疑応答が行われる。しかし、主に参加したドライブおよび回転機関係の Session はまだ参加人数が多かったが（といっても立ち見が出るほどではない）、人がまばらな Session も多かった。開催地が敬遠された（Katrina の影響で）ことも理由の一つであるかもしれないが、主たる理由は直近に EPE, IEMDC, PESC 等の国際会議が開催されていることかと思う。ただし、2009 年からは IAS Annual Meeting から Electrical Machines Committee, Industrial Drives Committee, Industrial Power Converter Committee 及び the Power Electronics Devices and Components Committee が抜け、PESC と統合した ECCE (Energy Conversion Congress and Exposition) が新しく開催されるので改善されると思われる。

実は、今回の Industrial Drive Committee では採択数が 84 件中 56 件と例年になく高く、実際に採択率が 10% 違うとこんな違うのか、という印象を受けた。誤解を受けないように書いておくと、もちろん論文のレベルはかなり高い。最近の国際会議では結果すらも怪しい場合や論旨が整っていない場合も見られるが、本会議ではそういうことはない。ただ、以前参加した時の感想は、ほとんどの発表が新規性に富んでおり参考にするばかりであったが、今回の場合、新規性はそれほど感じられず、場合によっては昨年の小変更のみに留まっている感があった。ただし、これは業界全体に言えることなのかもしれない、少なからず技術の飽和を感じた。

発表者の大多数は USA および UK を含むヨーロッパ圏から来ており、日本からの発表は少ない。USA に 2 年ほど滞在し、彼ら(USA の学生)の本会議への投稿の様子を見ると、あたかも我々が産業応用部門大会へ投稿するような勢いで投稿している。いわゆる Big name の大学では、それこそ 1 研究室あたり 10 件程度投稿する（採択率が例年 50%

程度なので、5, 6 件の発表件数となる）。つまり、当たり前の話であるが、彼らの発表件数が多いのは投稿件数が多いからである。日本の場合は国内会議と国際会議という位置づけおよび分類があるが、彼らにとってはその区がないということをはっきりと感じた（アメリカ人に Domestic Conference と言っても通じない）。ただ、彼らの中にも会議の位置づけはあり、本会議は“Best Conference”であると口をそろえて言い、企業関係者の聴講も多い。

こういった状況で日本から本会議への投稿件数を増やすことは難しいと思われるが、自身の経験から採択の可否はほとんど英語で決まっていると思う。つまり、論文の価値と新規性を正しい英語とフォーマットで説明できれば、D 部門誌レベルの論文はかなりの確率で採択されると思う。意外と思われるかもしれないが、日本の技術は USA ではあまり知られていない。グローバルな高効率化のためにもぜひ投稿していただきたい。日本人としてうれしいニュースは東京理科大学の千葉明先生が contribution to bearingless AC motor drives として IEEE Fellow に選出され Banquet にて表彰されたことである。

最後に、会議の開催された Down Town (French Quarter) はとても活気のある繁華街(Bourbon St.)があり、安全な街であった。いたるところで深夜まで Live 演奏が聞こえ Jazzy な街を堪能することができた。

2008 年は 10 月 5 日から 9 日にカナダの Edmonton で開催予定であり、アブストラクトの締切は例年通り 1 月 15 日である。



写真 2007 年 IEEE Fellow に選出された千葉明先生

赤津 観 (東京農工大学)
(平成 19 年 11 月 16 日受付)